

# 2013 7.15 中小企業家しんぶん

毎月3回発行  
5日、15日、25日  
第1262号

発行：中小企業家同友会全国協議会(略称：中間協) 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-16 市ヶ谷KITビル3F 電話03-5215-0876(代) FAX 03-5215-0878  
定価(送料共)1ヶ月250円/年間3,000円(会員の購読料は会費に含まれます) 振替00120-1-74548  
バックナンバー検索 <http://shinbun.doyu.jp/> ユーザー名 shinbun パスワード Midwafys4

今号の紙面から

- 2面 中四国ブロック、関東甲信越ブロック、北海道・東北ブロック支部長交流会(福井代表者交流会)の開催/意章月間の取り組み(福井県)
- 3面 地域活性化の鍵〜中小企業の元気/「知財」を力に! 第16回女性経営者全国交流会特集/消費税を考える/同友時評/時期創流
- 4〜6面 消費税率を考える/同友時評/時期創流
- 7面 消費税を考える/同友時評/時期創流
- 8面 消費税率を考える/同友時評/時期創流



力強くあいさつする役員の方々

## 新支部の誕生

三原市は人口約十万人。広島県の南東部、温暖な瀬戸内海に面し、山間部は作物を育む肥沃な土壌が広がっており、交通の

便にも恵まれています。古くは城下町として栄え、明治以降は、帝人や三菱などの大工場で多くの人が働いてきた地域でもあります。

その三原市に六月十五日、広島同友会の九番目の支部が誕生しました。一九九二年に準備会をスタートさせ、特別地区会の活動を経て、いよいよ機が熟し、六十三名の会員で支部設立

にぎつけたものです。

## 永年の願いが叶う 63名で三原支部設立

鳥 広

三原支部の会員の特徴は、①いい会社をつくらうという気概にあふれ、②とりわけ、共同求人活動や経営指針の成文化に熱心であり、③地域の再生に高い関心をもっていることです。

設立総会の冒頭、鈴木新支部長は「会員が地域でキラッと光る存在感のある会社になるよう三つの目的からられないよう地域の活性化にも努めたい。もし同友

会に入っていないければ私の会社はなくなっていたかも知れない。今、羅針盤のようなものをもって、社員と一緒に経営でき、人生でいっしょに楽しむ瞬間を味わっている。願わくはそんな人を一人でも増やし、元気な地域づくりに貢献したいと思う」と力強く決意をのべました。

記念講演は、忙しい日程をやりくりして駆けつけた宮崎本店の宮崎由至社長。「見える未来に自社の展望をはっきり描き、各社の強みを仲間と指摘し合い、ウイソウインの関係をつくっていく」と呼びかけました。会員はもちろん、社員

さんや金融機関、行政の方も共感して聞き入っていました。

懇親会では、天満三原市長や伏見商工会議所会頭があいさつ、「一緒に三原を元気にしていきたい」との期待が込められていました。

広島同友会の空白の地域は、江田島市や竹原市、安芸高田市、三次市、庄原市などたくさんあります。

現在の会員数は千四百四十三名、元気な中小企業が地域を元気にさせるの確信をもって、あせらず組織づくりをすすめて、創立四十周年の今年、二千五百名会員をめざします。

# 中小企業憲章の国会決議を

## 「要望・提言」で国会議員と懇談 中間協

中間協は、六月二十六、二十七日に二〇一四年度国の政策に対する中小企業家の要望・提言を持参して各党国会議員と懇談しました。

今回の要望書では、中小企業憲章の国会決議をはじめ「中小企業金融円滑化法」が本年三月末をもって終了した中で、金融担当大臣談話(二〇一二年十一月一日付)の遵守を求めています。また金融庁に「第三者の個人連帯保証を求めないことを原則とする融資慣行の確立」の趣旨をすべての金融機関に徹底することを求めています(本紙六月五日号に重点要望を掲載)。

要請行動には、中間協から石渡裕中協政策副委員長、板橋和彦同副委員長、国吉昌晴副会長、瓜田靖政策局長、中平智之事務局員が参加しました。

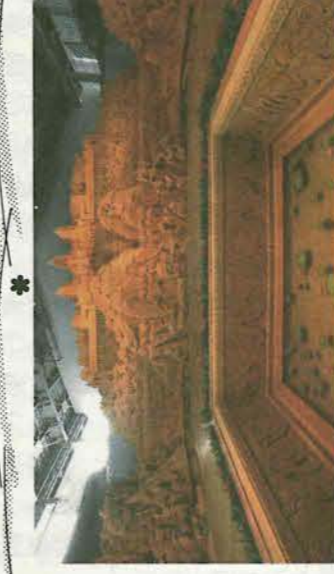
懇談した増子輝彦・参議院経済産業常任委員長・民主党副代表からは、金融円滑化法終了にともなう中小企業への貸し渡りがおきることがないように金融庁に対応を求めてきた結果、金融庁も十分に徹底していると説明がありました。

中小企業憲章の国会決議に関しては渡辺博道・自民党副幹事長が、与党である自民党をはじめ各党で一致することが課題であり、自民党においてはまず経済産業部会で検討することにな



写真は左から、自民党・渡辺博道氏、板橋和彦中協政策副委員長、国吉昌晴副会長、瓜田靖政策局長

## 砂の美術館



自然が気の遠くなるような年月を経て創りだした「鳥取砂丘」。その砂で美でる造形の世界、はかなくも美しい砂の芸術で魅了する世界初の美術館が「砂の美術館」です。現在は「砂で世界旅行・東南アジア編」。一番奥は世界遺産の「アンコールワット」。とても砂でできていたとは思えないくらいです。その創り方は、砂を水で固めただけの砂の塊を彫ったもので、制作中から完成後も常に崩れる危険が付きまとうことで、

## 鳥取から

(写真と文/鳥取・内田)

## 円卓

参議院選挙が始まった。衆参の両院のねじれが解消されるかが焦点だ。アベノミクスの賛否も問われるであろう▼第一の矢は輸出型大企業と証券・金融業には効果があったが、中小企業には材料やエネルギー料金の高騰で逆効果を生んでいる。第二の矢は財政出動で被災地の復興や老朽化したインフラ整備の予算はついたが、大手ゼネコンが受注するケースが多く、人手不足が深刻化し労働単価が高騰。中小企業の利益を圧迫している。現場や中小企業の声を聴いてくれと言いたい。中小企業憲章の精神を省庁横断的に理解をして貰いたいものだ。第三の矢である成長戦略は過去に打ち上げた政策の焼き直しが多く新鮮味は感じられない。クスリのネット販売解禁が成長戦略になるのかと疑いたくなる。一方で電力自由化と発送電分離は先送りされた。エネルギー政策は成長戦略の重要な柱として進めてもらいたい▼開業率を一〇%に上げる目標はまさに中小・小規模企業が主役として躍り出なければ達成できない。憲章にあるように人材が大企業信仰に囚われず、自ら起業家としての道をチャレンジしたくなるよう教育を通して勤労観や職業観を変化させていく事が肝要ではないか。